

意見交換会にあたり寄せられた市民の声(追加分)

— 先にお送りした声のあとに、新たに届いたご意見です —

昨日メールでお送りした「意見交換会にあたり寄せられた市民の声」のあとにも、新たにご意見が届きましたので、追加としてお渡しいたします。おひとりの方からのまとまったご意見を、趣旨を変えないよう守る会にて整理したものです。

ご意見の要旨(5 点)

1. 両館を「図書館法上の図書館」として残すことの利点

那賀川・羽ノ浦の両館が図書館として存続するのであれば、図書館法に基づいた予算措置を今後も求めていくことができる。市の職員体制を充実させながら、継続的な事業運営が可能になる。地味ではあるが、将来に向けて最も安定した基盤を一つ積むことになるのではないかと。

2. 教育委員会の教育方針についての疑問

2 館の図書館を「子どもの居場所」へと転換する今回の計画について、教育委員会はどのような教育方針・展望のもとで進めておられるのかを知りたい。学校施設の整備に先んじて図書館を縮小することを、そのまま容認してよいのか疑問がある。このまま事業が進めば、結果として税金が有効に活かされないことになるのではないかと、強く危惧している。

3. 今あるものを活かす発展を

新しいものに置き換えるのではなく、今ある施設と機能を活用しつつ、それを発展させていくことが現実的で必要な道ではないかと。

4. 図書館の価値について

図書館は、本を借りるだけの場所ではない。子どもたちの成長を支える大切な場である。

5. 那賀川図書館への評価と存続への願い

那賀川図書館は全国的にも素晴らしい図書館だと、活動を始めた当初から聞いている。周囲からは惜しむ声や憤りの声ばかりが聞こえてくる。「図書のみち」の特色として打ち出すのにふさわしい立派な図書館であり、なくしてしまうのはあまりにもったいない。どうにか発展させていただきたい。

おわりに

このご意見には、両館を図書館法上の図書館として残すことが予算・職員体制の面で最も安定した基盤になるという指摘と、那賀川図書館への強い愛着が込められています。先にお送りした声とあわせて、今後のご検討の参考としていただけましたら幸いです。